

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大田原市立若草中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	1	11	24
生徒数	109	100	104	5	318	

研究の概要

1. 研究主題

「主体的に学ぶ生徒の育成を目指して」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・数学  
生徒の習熟の程度に差がつきやすい教科であるので、低学年の段階から少人数指導を行い、基礎学力の定着と伸長を図るため
- ・ 3年生・数学  
最終学年に、生徒の習熟の程度に応じた指導や個に応じた指導を行い、学力の伸長を図るため
- ・ 1年生・英語  
TTによる複数の教員が指導することで、英語初年度において基礎・基本の確実な定着を図るため
- ・ 2, 3年生・英語  
領域別に教師が交代し少人数で指導することで、十分に教材を研究した上での授業実践と、それによる生徒の技能の習熟を図るため
- ・ 3年生・英語  
最終学年に、生徒の習熟の程度に応じた指導や個に応じた指導を行うことにより学力の伸長を図るため
- ・ 2年生・選択教科  
生徒の興味関心の多様化に応じたコースを開設し、生徒のニーズに合った学力の伸長を図るため
- ・ 3年生・選択教科  
生徒の興味関心の多様化や、生徒の習熟程度の差に応じたコースを開設し、生徒のニーズに合った学力の伸長を図るため
- ・ 全学年・短時学習  
生徒の興味関心に応じた短時学習プリントを準備し、検定試験と関連づけることで意欲を持たせ、基礎学力の充実と、自主自学の体制をつくるため

(2) 年次ごとの計画

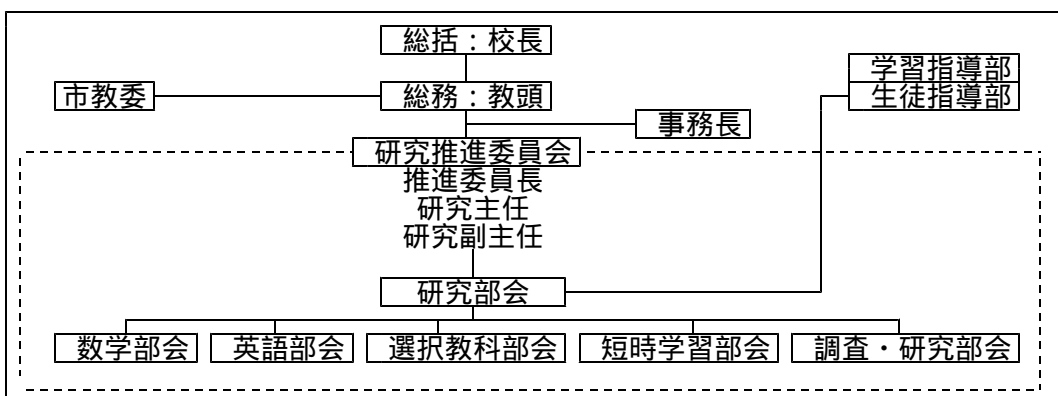
平成14年度	<p>テーマ 一人一人の学びの心を大切にしたい指導法や指導体制の工夫・改善</p> <p>仮説 一人一人の学びの心を大切にしたい指導法が実践され、生徒が学習意欲をもって課題解決に努力し、その結果が適時・適正に評価される機会を重ねれば、個人に適した「学び方」が確立され、主体的に学ぶ態度と確かな学力が育成されるであろう。</p> <p>研究内容・方法 教科(数学・英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の実態の把握</li> <li>・ 効果的な個に応じた指導法の工夫</li> <li>・ 少人数指導における意欲を高めるグルーピングの工夫</li> <li>・ 教材教具の開発</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の工夫改善</li> <li>選択教科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正なガイダンスについての検討</li> <li>・意欲を高める学習内容（課題・教具教材・年間計画）の作成</li> <li>・評価の工夫改善</li> </ul> </li> <li>学級 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への心構えの指導</li> <li>・家庭生活・学校生活の充実をめざす指導</li> <li>・基礎基本の定着を図る指導</li> <li>・朝の読書を推進する指導</li> <li>・自己実現をめざした進路指導</li> </ul> </li> <li>調査研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上への意識調査</li> </ul> </li> </ul>
--	--

平成15年度	<p>テーマ  学ぶ力を育て、意欲を高める指導法や指導体制の工夫・改善  （主体性を重視し、意欲を重視したためサブテーマを変更）</p> <p>研究の見通し  個に応じた指導として、少人数学習や習熟度にあった学習課程が実践されることで、それぞれの能力や適性をよりよい学習環境で伸ばすことができるであろう。さらに、短時学習や家庭学習の充実などの学習時間の捻出とその内容の工夫により、全体の学習環境が改善され、基礎学力の定着や向上が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法  教科（数学・英語）における少人数学習とTTの実践方法の検討  ・習熟度に差ができる教科として英語と数学を重点的にとらえ、個々の生徒に対応する授業体制を考える。その中で、評価や教育課程の研究を行う。</p> <p>選択教科における少人数学習と習熟度学習の実践方法の検討  ・少人数学習を進める上で、選択教科の存在をアピールする。  ・3年生において選択の時間の中で習熟度学級を編成し、その可能性を確認する。</p> <p>短時学習時間における興味関心に対応し、達成感や成就感を味わわせる学習課題の研究  ・前期3年生、後期1、2年生を対象に、20分程度の自主学習時間を計画する。この時間は、生徒の興味関心に基づき、自主学習を行う時間とし、それを支援する形で校内到達度認定や、各種検定に対応する奨励などを行う。</p> <p>教育課程における学力向上の可能性の検討  ・上記各項目を支援する形で教育課程の編成を検討する。</p> <p>家庭学習の効果的活用  ・学校における授業の支援として家庭学習の活用と実践により、その効果を研究する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ  学ぶ意欲を育てる評価と、個に応じた指導法や指導体制の工夫・改善  （さらに検討してから決定）</p> <p>研究の見通し  指導法の改善として評価を見直し、個に応じた指導を充実させることで学力の向上を図る。</p> <p>研究の内容・方法  今年度の研究を踏襲しつつ検討</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

**数学科**

- ・コースによって進度を変えたり重点を変えることができ、個に応じた指導を実現できる。
- ・「応用・発展コース」では教科書以外の発展問題に多く取り組むことができる。
- ・「基本コース」では、ともすればできたものとして授業で軽微な扱いしかされなかった単元を時間をかけた丁寧な取り扱いを行うことにより、支援を要する生徒への効果的な指導となった。
- ・標準学力調査（h14 と h15 の比較）の分析で「数と式」「数量関係」の分野で達成率の向上が確認できた。

**英語科**

- ・1, 2年生は初めての少人数指導なので、「質問しやすい」「先生がすぐ回ってきてくれる」と好評である。3年生は2年目なのでかなり慣れてきており質問をしたり級友と相談したりと活発に活動している。
- ・Speaking に関してはものおじすることなく、ALT との会話をしている姿を目にする。文法的なことはあまり考えていなくても、会話が成り立つのを実感しており、積極的に話している生徒が多い。
- ・Writing クラスではワークシートで書いたことが残るので評価をしてやることにより、意欲づけになり、いろいろな表現を使ったり、まとまった文章を書くようになる生徒が増えた。
- ・標準学力調査（h14 と h15 の比較）の分析で学力不振生徒数減少が見られた。

**短時学習**

- ・生徒が主体的に学習教科やランクを選べるので、意欲的に取り組む状況がある。

**選択教科**

- ・自分に適する教科や内容を選べることで、主体的な学習態度が見られる。特別選択では自分の目標を明確にして取り組んでいるため、意欲的である。

**家庭学習**

- ・職員の共通理解のうえ、各教科で家庭学習について検討を重ねている。

## 2. 今後の課題

<p>数学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下位の生徒に対する支援の可能性を広げている習熟度学習であるが、極端に低い生徒に対する支援には限界がある。 授業時間以外の手だてを考える必要性があるのでは？</li> <li>・ 評価補助簿の活用と評価方法について、共通意識とさらに研究していく必要がある。</li> <li>・ 授業時数過多のため、1～3学年に対し年間を通して行えない現状がある。</li> </ul> <p>英語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟の差があり、単純に反復することはできるが自分の表現になっていない生徒もいる。少人数指導の利点を生かして、生かしたい生徒への支援を適宜行いたい。</li> <li>・ 先生が近くにいることからあまり考えずにすぐ質問してしまう生徒もいる。知りたいときにすぐ教えてもらえることにより満足はできるかもしれないが、自己学習力をつけさせたい。</li> </ul> <p>短時学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よりよい運営の方法を検討するとともに、学習プリントや到達度テストの工夫と改善。</li> </ul> <p>選択教科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年計の整備と、豊かな教材の準備。</li> </ul> <p>家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習課題の検討と、家庭学習奨励の効果分析。</li> </ul>
--

### 学力把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>学力検査の実施（年1回）</li> <li>学力に関するアンケート（年2回）</li> </ul>
--

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>第1回那須地区学力向上推進協議会における実践発表</p> <p>日時 平成15年8月19日（火）13:30～</p> <p>場所 那須町文化センター</p> <p>対象 各小・中学校学習指導主任、参加を希望する教職員、保護者等</p> <p>内容 管内各小・中学校における個に応じた指導の充実を図るために、学力向上フロンティアスクールの取り組みの概要とその成果と課題についての発表</p> <p>「学力向上」に関する優良校視察</p> <p>日時 平成15年8月20日（水）10:30～11:30</p> <p>場所 大田原市立若草中学校</p> <p>対象 茨城県金砂郷町小・中学校教職員（25名）</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上フロンティアスクールとしての取り組みについて</li> <li>・ 個に応じた指導について</li> <li>・ 児童生徒の変容について</li> </ul> <p>第2回指導主事研修会</p> <p>日時 平成16年1月21日（木）10:00～16:30</p> <p>場所 栃木県自治会館</p> <p>対象 市町村教育委員会指導主事 総合教育センター義務教育関係指導主事 県教育委員会各課・室義務教育関係指導主事</p> <p>内容 確かな学力を育成するための先進的な事例の発表</p> <p>第2回那須地区学力向上推進協議会</p> <p>日時 平成16年1月22日（木）14:00～16:30</p> <p>場所 那須庁舎</p> <p>対象 那須地区学力向上フロンティアスクール研究主任等 関係市町村教育委員会指導主事 那須教育事務所関係指導主事</p> <p>内容 学力向上フロンティアスクールの研究推進状況についての説明 研究推進上の問題解決に向けての研究討議</p>
---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無